

# ぐりふぁん letter



Vol.  
46  
2023.8

## INDEX

- ◆ ウトロ平和祈念館おひさまプロジェクト  
ウトロ平和祈念館におひさま発電所ができました! . . . 2
- ◆ ウトロ平和祈念館おひさまプロジェクトに参加して . . . 3
- ◆ 幼稚園とこども園 2つのおひさまプロジェクト . . . 4
- ◆ 新たな出発に向けて . . . 5
- ◆ 太陽光ってほんとうにだめなの? . . . 6
- ◆ 2023年度 環境学習  
総会報告  
編集後記 . . . 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



# ☀️ ウトロ平和祈念館に .....▶▶▶ おひさま発電所ができました!

## 「おひさま発電所」開設にあたって

ウトロ平和祈念館事務局長 (きょうとグリーンファンド副理事長) 阿部 纈

このたび、おひさま発電所開設にあたり、きょうとグリーンファンドを始め「市民再エネプロジェクトin京都」の皆様、またウトロ平和祈念館に関心をお寄せいただいた方々には、多大なご協力、ご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

私事で恐縮ですが、グリーンファンドには20年以上、ウトロにも20年近く関わってきたものの両方ともあまりお手伝いできずにいる事を心苦しく思っていました。しかし、両方とも自分の生活の中では同じ線上に立つもので、特に祈念館の建設が具体的になってきてからはこの二つを結び付けられたら・・・と実は小さな望みを抱いていました。

食事・子育て・遊びや勉強・仕事など、日々の営みは、大げさかもしれませんがこの世の中で網の目のように拮

がっている、人類の普遍的な課題に向き合う作業そのものではないでしょうか。気候変動を始めとする環境問題、命、差別、人権や平和の事、宗教、政治、アート表現・・・全ては繋がり、お互いに干渉し合いながら良くも悪くも歴史を刻みます。

ウトロ平和祈念館はウトロの歴史を学ぶことで希望を持ち、其々のその後に繋げてもらえたら・・・という思いで昨年4月に開館いたしました。“戦争でうまれた街ウトロ”で決してあきらめずに闘った人々、またウトロの事を“我が事”として支援した日韓の市民、それを受けとめた韓国や日本の行政。大勢の人々が出会い、知恵を絞り、協力、連携しました。それぞれ、自然エネルギー100%達成！を胸に、「ゼロ」から出発してその時々の世界の動き、国の施策等を見据えながら20年以上に渡り工夫を重ね、沢山の専門家の知恵もお借りして連携し、粘り強く前向きに活動を続けてきたきょうとグリーンファンドと共通点が沢山あります。

ウトロ平和祈念館開館一周年記念式典で“市民共同によるおひさま発電所の点灯式”を行えたことは本当に意義深く素晴らしい事でした。まるで“運命のふたり・・・”のような気がしてなりません。別々の分野で諦めずに、出会いを大切にしながら、学び、それを活かす活動をしていた両者が出会うべくして出会った！それぞれに関わっている人達にいくつもの水紋が、触れ合いながらどんどん広がっていくのが目に見えるようで嬉しくて楽しくてたまりませんでした。そしてこの広がりはきっと今後も続きます。戦時中に計画された京都飛行場の場所や広さなどを確認する為にフィールドワークでは必ず屋上へ上がります。屋上への出入口の踊り場には“市民共同発電所・ウトロ平和祈念館おひさま発電所”と書かれた杉板の看板、屋上の太陽光発電パネルの横には市民再エネプロジェクトin京都の説明パネルが設置されています。

人権や環境の問題はどちらも大事で、それらは密接に繋がっているということ。祈念館を訪れる方々が本当に大切な事を感じ取って下さることを願ってやみません。

☆ウトロ平和祈念館は見学、団体研修ガイドも受け付けています。詳しくはHP <https://www.utoro.jp/>



ウトロ平和祈念館屋上に設置されたおひさま発電所は、まじかにパネルが見られる数少ない発電所になりました。祈念館を見学される多くの方々にも太陽光発電のこと、再生可能エネルギーのこと、異常気象のこと、地球温暖化のこと・・・、そしてこれからのことを一人ひとりに考えてもらいたい。この発電所からどんな広がりがうまれるのか、楽しみに見つめていきたいと思

(きょうとグリーンファンド事務局)

ウトロ平和祈念館おひさまプロジェクト 収支報告			2023/6
収入の部		支出の部	
プロジェクト寄付金(291件)	2,039,000	設備設置費 ・太陽光発電(9.31kW) ・蓄電システム(14.08kWh)	4,620,000
プロジェクト基金助成	500,000	印刷製本費	434,000
寄付金(市民エネルギー京都)	27,000	諸謝金	19,000
民間助成金(パブリックリソース財団)	289,000	記録費	50,000
設置施設資金 (京都府自立型再生可能エネルギー 導入補助金210万円を含む)	3,075,000	通信運搬費	70,000
		旅費交通費	10,000
		租税公課	3,000
		事務局経費	720,000
		雑費	4,000
合計	5,930,000	合計	5,930,000

(単位: 円、千円以下原則四捨五入)

# ウトロ平和祈念館おひさまプロジェクトに参加して

ウトロ平和祈念館おひさまプロジェクトでは、点灯式でトークセッションを開催するなど、次世代を担う若い世代の参加が目立ちました。その中のお二人に、ご自身の活動やおひさまプロジェクトに参加しての感想などを寄稿していただきました。

## ◆ 気候ネットワーク 延藤 裕之

ウトロ平和祈念館開館1周年となる2023年4月30日、おひさま発電所の完成披露をおこなう点灯式が実施されました。会場には大勢の観覧者が集まり、点灯の瞬間には発電所の看板が登場する素敵な演出がありました。そして、ウトロ地区での記憶と想いを未来へとつないでいくために建設されたウトロ平和祈念館に、発電所が建設されたことは大きな意味があると感じました。気候危機が顕在化し、脱炭素社会に向けて世界が転換している最中、ロシアはウクライナ侵攻をはじめました。戦争は人権を脅かす最たるものであり、同時に脱炭素社会への移行を阻み、エネルギー問題を引き起こしました。気候危機・人権問題・エネルギー問題などは密接に関係しており、同じ地球で暮らしている限り切り離すことのできない問題です。こうした中で建設・設置されたウトロ平和祈念館とおひさま発電所は、気候危機や人権問題に対して目を背けることなく未来に伝え、市民・地域共同による解決策を示す場所であると言えます。

点灯式後半では若者世代を中心とした「おひさま勉強会～トークセッション～」を実施するという新しい試みもありました。気候危機やウトロ地区に関する人権問題について情報提供し、環境問題と人権の深い繋がりについて共有することができました。トークセッションでは、ウトロ地区の歴史から気候正義の観点、市民・地域主体による気候変動対策が重要であることを話し合いました。また、気候危機と人権問題の解決には対等な対話が欠かせないという話があり、対話を促すには「物理的な場所があること」、「オープンであること」、「安全であること」が条件であるという言葉が印象に残っています。ウトロ平和祈念館は地域の対話を促す拠点となり、対話によって平和で公正で持続可能な脱炭素社会を実現する希望の場所となることを信じています。

## ◆ Fridays For Future Kyoto オーガナイザー 進藤 天真

### ・地域から市民主体で目指す「気候危機の解決」

私は、高校3年生(2020年)のときに気候危機に対する危機感を抱き、Fridays For Future Kyoto(以下、FFF京都)に参加し活動を行っています。

FFFは、2018年にスウェーデンの気候活動家グレタ・トゥーンベリが、政府に対して野心的な対策を求めて行った「学校ストライキ」をきっかけに世界中に広がった若者主体の気候ムーブメントです。FFF京都は2019年3月に発足し、京都府・市へのアプローチやイベントの開催、SNS発信などを行っています。

私にとってのFFF京都の活動の意義は、「地域からボトムアップで社会を変える」という視点を共有し実行していることにあります。グローバル・イシューとしての気候危機を、対策と被害の最前線である地域にどのように落とし込み、取り組んでいくのが重要であると考えています。

先日、ウトロ平和祈念館で開催された「おひさまプロジェクト」点灯式と、合わせて開催されたトークセッションに参加させていただきました。その貴重な機会のなかで『地域コミュニティにおける気候危機対策のあるべきかたち』について学びきっかけをいただきました。

ウトロに新たに設置された太陽光パネルの役割は、ただ気候危機対策としてのみ存在するだけではありません。インフラ整備が行われなかったウトロの歴史から生まれる「自ら発電する」ことの意義や、災害時のコミュニティ強化など、コミュニティに根ざした意義や価値を新たに生む、市民にとってポジティブな対策としての役割を含んでいます。こうした、地域コミュニティにおける危機の位置付け、また対策における地域性を加味した取り組みは、未来の世代にとっても大きな希望であると感じました。

私自身も地域に根ざした活動を広めるうえで、地域コミュニティのビジョンや価値を包括して取り組める方法を模索しつつ、地域からポジティブな変化を起こしていきたいと思っています。



## 幼稚園とこども園 2つのおひさまプロジェクト

今、市民再エネプロジェクトin京都では、2つのおひさまプロジェクトがほぼ同時期に進行中です。

### <学校法人下鴨学園 下鴨幼稚園>

左京区にある下鴨幼稚園は1926年に建てられた下鴨キリスト教会の東側に、1928年白いテントを張って始められた「下鴨幼稚園」が始まりで、3年後の1931年幼稚園として認可を受けました。現在の園舎、教会は1997年建て替えられたものだそうです。

すぐ近くに賀茂川があり、「子どもたちのお庭となっている。」とお聞きしました。45名定員の小規模な幼稚園ですが、キリスト教(日本聖公会、イギリス国教会系)に基づく保育を行っておられます。実は、2020年におひさま発電所を設置した同じ左京区の聖光幼稚園(幼稚園型認定こども園)からのご紹介で、今回のプロジェクトは始まりました。

初めて説明に伺った時、園長先生は、おひさまプロジェクトのことは既にかかなり理解をされているようで、ひとわりの説明の後、はっきりと意思を示されて、申し込みをされました。

おひさまプロジェクトの資金計画では、京都府の「自立的地域活用型再生可能エネルギー設備等導入補助事業補助金」が大きな柱になっています。この補助金を得るには京都府の認定を受ける必要があります。いくつもの課題がありましたが、何とか認定をとることができました。現在、補助金申請に向けて準備中です。

### <社会福祉法人ののほな会 吉祥院こども園>

吉祥院保育園(現在は保育所型認定こども園)は1935年に開設、80年を迎えた後の2017年園舎全面の建て替えをされました。卒園児も4,600人を超え親・子・孫三代にわたって入園される方もおられるとか。

園は四季の花と緑豊かな吉祥院天満宮の一角に位置し、お散歩範囲内にも8か所の児童公園があるとお聞きしましたので、おひさま発電所設置後の自然観察会がちょっと楽しみになってきました。

園長先生からのご連絡をいただき、初めて訪問、あらかたの説明をさせていただいたのですが、的確なご質問からきょうとグリーンファンドのホームページは隅から隅まできちんとご覧になっていることが窺えました。先に設置された安朱保育園(山科区)とは、同じ宗派でご存じだということで、園舎建て替え後、落ち着いた今が設置のタイミングだとのお考えで、意欲を示されました。

下鴨幼稚園と同様に手続きを進めており、現在、京都府の認定が認められるところまでは進んでいます、工事着工までにはもう少し時間がかかりそうです。



### <ただいま「再エネ応援団」大募集中!!>

きょうとグリーンファンドでは、今までになく2つのプロジェクトがほぼ同時に進行中で、事務局では事務作業や打ち合わせなど忙しくしていますが、地球は「温暖化」どころか「沸騰化」の時代に突入しているとか。おろおろせずにはいることは何かを考えて、あきらめずに進めるほかない！と覚悟を決めて、私たちは再生可能エネルギーをひろげていこうと考えています。

ただいま「応援団」を大募集中です。会員になっておひさま発電所を増やす活動を支えてくださる方、寄付をして再エネ拡大を応援しよう、という方…。

**さあ！ 私たちと一緒に再エネを広げていきましょう。**



## 新たな出発に向けて

NPO法人 あまっこ市民エネルギープロジェクト 広畑 貞昭

6月11日、NPO法人 あまっこ市民エネルギープロジェクト第19回総会を開きました。コロナ禍が少し落ち着いたこともあったのか、久しぶりに顔を合わす会員で会場はにぎわいました。きょうとグリーンファンド事務局長大西啓子さんに講演をお願いしました。講演の題名は「京都の街で市民共同発電所を作り続けて」とちょっと無理強いした表題でしたが、直近ではウトロ平和祈念館に太陽光発電所を創られ、気候変動問題と人権問題を結び付けたことに感動したことにもよります。

少し私たちの活動を紹介します。当初、反原発運動もあって、市民共同発電所運動に接したとき自然エネルギーの可能性と「反対するだけでなく自分たちの電気は自分たちで創ることができる」ことに強くひかれました。市民共同発電所全国フォーラムの事例も参照しながら、2003年に最初の発電所=あまっこ1号（設備容量3kW、特別養護老人ホームの屋上）を作りました。資金は滋賀県石部のでんとうむし1号の方式を参考に、一口10万円の出資（法的には出資ではありません）と寄付金で賄いました。一年もたたないうちに、地域の保育園で太陽光発電所を作りたいと要望が出ました。10万円の出資を募ることは、園児の親にとっては厳しすぎます。実はその時、大西さんに講演に来ていただいて、いろんなことを教えていただきました。私たちはNEDOの補助金も知りませんでした。聞くと補助金の締め切りが数日後。急いで書類を作り、最後はNEDOの大阪事務所にパソコンを持ち込み最終仕上げ。間に合いました。



保育園に太陽光発電所を作ったことによって、保育士さんたちも活動に加わってきました。ここでもグリーンファンドの活動に学びました。ぐりにゃんなどの絵本活動、子ども祭りなどにはソーラークッカーを使ってのおひさまの力を子どもたちと感じ合うなど環境教育を積極的に行いました。

一方、市民共同発電所といえば、2014年にFITを使い3号機（さんさん発電所）を建設しました。それ以降、市の建物への太陽光発電設備の導入事業に応募などしましたが、入札などうまくいかず、市民共同発電所の建設はお預けになっています。

そこに2020年のコロナ。活動の拠点が福祉施設や保育園ということもあって思うように活動が出来ませんでした。コロナ禍の3年間という表現で活動の停滞を表現していますが、実はそれ以前から活動家層の固定化や環境教育には関心を示すが、発電所建設などはマニアックでなかなかとつきにくいなど何を活動のメインにするか、会員の中で方向性を見いだせなくなっていたことが活動の停滞の本当の原因だったと思います。

大西さんのお話をお願いした背景には、活動の再出発にあたり、ヒントと元気をもらうことでした。仲間の保育園で太陽光発電所を作りたいと、ずーっと思い続けているところもあります。つけたらもっと活用したいですよ。どういう活用方法があるか？ 大西さんの京都での実践報告は会員の皆さんの心に響いたと思います。

コロナ禍からの再出発といいましたが、今年にあまっこ1号20周年、さんさん発電所10年で出資金の返還年でもあり、一つの節目でもあります。今後の活動に関してはもう一度一から議論しながら、会員の皆さんが創意工夫をして新たな活動を広げていけたらと思います。

# 太陽光ってほんとうにだめなの？

最近、太陽光発電のネガティブな情報をよく耳にする。特に緑の山肌を削って設置されているメガソーラーなどを目にとると心が痛む。京都でも南山城村でメガソーラーに対する住民の反対運動があり、お隣の奈良県では今ももめている。

2021年、東京都が太陽光の設置義務化(標準化)を提案してからの「太陽光ヘイト(憎悪・反感)」は凄まじかったらしい。2022年のパブコメでは、義務化賛成56%、反対41%で、20歳代の77%は賛成派だったという。

景観を壊し、住民の声を反映しないメガソーラーは私たちも当然賛成できない。しかし、メガソーラーに反対するあまり、太陽光発電まで否定してしまうのはいただけない。東京の太陽光ヘイトは、バックに「再エネ憎し」の意図的な勢力の存在を感じてしまうが、本当に太陽光発電のメリット・デメリットを理解した上でのネガティブな態度なのか、大いに疑問が残る。2012年のFIT制度導入以来、急速に太陽光発電が伸びた。私たちのまわりでも太陽光はごく当たり前の存在になった。よく解っている気であるが、果たしてそうだろうか。

きょうとグリーンファンドは2000年以来太陽光発電の拡大に取り組んできた。それは気候危機のためには再エネへの転換が何よりも重要で、内陸部の京都では太陽光が最善の選択だと考えてきたからだ。今回は、その太陽光への「ギモン」について考えてみたい。

まず、原発や火力発電推進派から言われることは「太陽光は不安定電源だ」という点である。再エネには太陽光や風力のような変動性電源と、水力や地熱、バイオマスのような変動の少ない電源がある。太陽光は発電量がある程度予測可能な電源であり、風力など他の電源と組み合わせればその変動性は克服可能なものである。EUなどでは既に再エネが50%を越える国もあり、適切な制度設計で乗り越えられている。日本は20年は遅れている。

二つ目は、「自然破壊につながる」というものだ。先程も述べたが、景観や住民の声を無視したメガソーラーは認めることはできない。トラブルが続発して、自治体が規制条例を作り出した。環境省も、自治体が再エネ施設に適した土地促進区域(ポジティブ・ゾーニング)の設定を努力義務化した。屋根載せ太陽光は建造物の10%以下であり、まだまだ余裕はある。無理して野立のメガソーラーを作らなくても屋根の上は空いている。特に最近の電気代の高騰以降、自家消費型の太陽光の導入は企業の間でブームになっている。耕作放棄地や農地に設置するソーラーシェアリングもまだまだだ。視点を変えることが重要だ。

三つ目は、雨漏りなどメンテナンスのことだ。基本的に日本国内で販売されている太陽光は、販売メーカーが施工業者に講習などを義務づけている。メーカーの施工IDがないと工事ができない。適正に施工されていればほぼ雨漏りなどは生じない。日本住宅保証検査機構(JIO)が2008年～20年で「新築住宅瑕疵保険」約100万件で太陽光の雨漏りはたった2件だったという。ほぼゼロに近い数字だ。メンテに関してはメーカーが4年毎の点検の実施を推奨している。少し話は変わるが、太陽光の火事に関して、水がかげられないという誤った情報を信じている人もいる。消防庁は「感電に注意が必要なものの、他の火災と同様に放水で消火している」と回答している。

最後は、廃棄の問題だ。太陽光は製造に使ったエネルギーは、発電によって数年で回収できる(エネルギーペイバックタイム)。寿命は30年以上で廃棄後は99%リサイクル可能だ。パネルの主成分は、ガラス、アルミ、樹脂でほぼリサイクルできる。実際京都でも八幡市に近畿電電輸送という会社がリサイクル事業を行っている。工場見学したが、ほぼリサイクルされていた。また、廃棄時の費用に関しては、資源エネルギー庁が2022年度から10kW以上のFIT・FIP案件に関して太陽光廃棄費用の内部積立制度を開始している。設置者に買取価格の一部を半強制的に積立てさせているのだ。

まだまだ言いたいことはあるが、概ね安全で手軽な再エネであることに間違いはない。問題は、原発に固執して太陽光などの再エネを拡大させようとしめない政府の姿勢である。2030年までもう時間はない。さらなる取組みの強化が求められる。



5月からコロナが5類相当に引き下げられ、環境学習ではマスクなしで、子どもたちの元気な声が聞けるようになりました。環境腹話術では、ゴミを減らそうという観点から、今年度からエコバッグや水筒以外に、新しく食事の食べ残しについてのお話を取り入れています。食べる時は、最初にたくさんとりすぎないで食べられるだけの量をとって食べきりましょう、といったことです。思った以上に園の先生からの関心がよせられています。

園の給食での食べ残しは先生方も悩んでおられるようです。園では子どもたち一人ひとりに量を合わせるの難しいですが、できるだけ食べ残さないようにと努力されています。きょうとグリーンファンドとしては環境学習での話を子どもたちに家庭に持ち帰ってもらって、家庭での食事のときに話題にのせてもらうのがねらいです。



その他、通常環境腹話術や自然観察会に加えて、京都市右京区のうたの・ひこばえ児童館で、子どもたちや先生方と、「雨水タンク設置ワークショップ」を実施しました。実際の雨水タンク設置の前に、雨水を利用することの大切さを、紙芝居「ぐりにゃんの雨だいすき」を通して学習しました。雨が降る仕組み、海外の干ばつの様子、水を浄化する為にエネルギーを使い二酸化炭素が発生する話、雨水を利用すると、エネルギーの使用を減らし地球温暖化防止になる話です。

雨水タンク設置の現場では、色々な工具も登場して、ワイワイと、盛り上がりました。今までも雨水タンクを設置した園で、砂場遊びや植物の水やりなどに雨水を活用し、水道水の使用を大きく減らす効果がでています。これからも「雨水タンク設置ワークショップ」を積極的に進めていきたいと思っています。

#### ◆2023年度 環境学習予定

★見学をご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

自然観察会

10月21日(土)

10月31日(火)

11月2日(木)

11月4日(土)

(きょうとグリーンファンド 深川佳子・山本照美)

## 2023年 総 会 報 告

2023年総会は、2022年度の報告を了承、2023年度の方針を確認することで、スムーズに終わりました。しかしながら、昨年7月31日には前理事長の松岡憲司さんが急逝、現理事長の田浦健朗さんに理事長を担っていただくことに落ち着くまでの、手続きの大変さとそれを上回る残念さ、悲しみを思いました。

また、2023年度の事業の順調な進み具合と、それに比しての財政の逼迫度合いは、今までになく大きな課題として顕わになってきました。おひさま発電所は広がっていますが、NPO法人自体を支える会員は減っているのが現状です。

温暖化による異常気象が「日常」となり、具体的な被害が広がっている今、きょうとグリーンファンドの活動を「やめる」という選択はない、でしょう。まずは、「会員を増やす」ことに努力せねばならない2023年度となります。ご協力をよろしくお願い致します。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

#### 編集後記

- ・暑い！暑い！暑い！過去12万5千年間で最も暑い10日間だそうです。原因は自然、ではなく人間の活動なんですね。エアコンなしでは過ごせない毎日に、暗澹たる思いがします。(K.O)
- ・「エコってどんなこと？」と園の先生の問いに「地球にやさしいことをすること」と答えた園児たち。おひさま発電所になっている、こども園でのお話です。(Y.F)
- ・気づかない内に熱中症になったりして、温度計や湿度計がないと判断できなくなってきましたが、危険を察知する感覚を大切にしたいです。(T.Y)
- ・電車が運休になり、バス停やタクシー乗り場は凄い列。大阪の北部地震の事を思い出し、帰宅難民になったと想定して、歩く事にしました。スマホの電源を切って、勘だけで進み、迷いながら、帰宅。良い経験になりました。(Y.M)
- ・そろそろ夢から覚めたらどうか。あり得ない経済成長を追い求めるのはやめた方が良い。現在がそうだが、成長しなくてもケア中心の連帯社会もそう悪くない。(T.H)
- ・コロナは少し落ち着いたけど、異常気象や大雨で毎日大変です。後半元気で乗り切りたいと思います。(Y.F)
- ・7/14 Fridays For Future Kyotoの学生さんたちに混じって、四条大橋でのスタンディングアクションに参加。気候危機が顕在化する今、私たち世代の責任は大きい。若者たちに申し訳ないと思いつつ、彼らに託す未来に期待したい。(S.K)

# 《 ぐりふぁん日誌 》

- |   |   |
|---|---|
| 2/6 自然エネルギー学校・京都 検討会議／オンライン                       | 5/30 環境腹話術／大宮保育園                              |
| 2/19 チェルノブイリ・福島 京都の集い参加／京都アスニー                    | 自然エネルギー学校・京都検討会議／オンライン                        |
| 2/27 ウト口平和祈念館おひさまプロジェクト打合せ／ウト口平和祈念館               | 5/31 ウト口平和祈念館おひさまプロジェクト打合せ／オンライン              |
| 3/1 吉祥院こども園訪問                                     | 6/3 2023年総会                                   |
| 3/1 自然エネルギー学校・京都 検討会議／オンライン                       | 6/10 職員研修(自然観察会)／みょうりんえん                      |
| 5/9 自然エネルギー学校・京都検討会議／オンライン                        | 自然エネルギー学校・京都2023第1回／京エコロジーセンター                |
| 3/14 上鳥羽北部 きせエコグループ打合せ／上鳥羽北部 きせ                   | 6/11 事例報告(あまこ自然エネルギープロジェクト総会)<br>／尼崎ユース交流センター |
| 3/22 ウト口平和祈念館おひさまプロジェクト打合せ／オンライン                  | 6/23 下鴨幼稚園おひさまプロジェクト打合せ／下鴨幼稚園                 |
| 3/29 第143回理事会                                     | 6/29 環境腹話術／みょうりんえん                            |
| 4/7 ウト口平和祈念館見学                                    | 7/5 上鳥羽北部 きせ絵本サークル打合せ／上鳥羽北部 きせ                |
| 4/25 第144回理事会<br>上鳥羽北部 きせエコグループ打合せ／上鳥羽北部 きせ       | 7/10 環境腹話術／陵ヶ岡こども園                            |
| 4/26 吉祥院こども園おひさまプロジェクト打合せ／吉祥院こども園                 | 7/15 上鳥羽エコまち くらぶ発会式参加／上鳥羽北部 きせ                |
| 4/30 ウト口平和祈念館おひさまプロジェクト点灯式                        | 7/19 環境腹話術／かすがのえんこども園<br>第145回理事会             |
| 5/4 2022年度 監査                                     | 7/22 自然エネルギー学校・京都2023第2回／京エコロジーセンター           |
| 5/9 おおやけこども園自然観察会／京都御苑<br>自然エネルギー学校・京都 検討会議／オンライン | 7/26 吉祥院こども園おひさまプロジェクト打合せ／吉祥院こども園             |
| 5/19 環境腹話術／聖光幼稚園                                  | 7/29 ウト口平和祈念館おひさまプロジェクト打合せ／ウト口平和祈念館           |
| 5/27 雨水タンク設置イベント／ひこばえ児童館                          |   |

## □ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によってささえられています。おひさま基金へのご支援をお願いします。

### ◆ ゆうちよ銀行

ゆうちよ銀行振替口座番号：00930-6-157817 加入者名：きょうとグリーンファンド

### ◆ オンライン寄付サイト Give One

クレジットカードによる寄付ができます。

「わたしのまちに太陽光発電～寄付で自然エネルギー」



### ◆ ソフトバンクつながる募金



携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができるだけでなく、ソフトバンクユーザー以外の方でもクレジットカードによる寄付ができます。



★詳細はきょうとグリーンファンド HP 「入会・寄付のご案内」をご覧ください。 <http://www.kyoto-gf.org/donate/donate.html>

★2020年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

## 会員数

正会員 34 賛助会員 22

法人会員 6 2023/8現在

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町21 事務機のウエダビル206  
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org  
URL ; <http://www.kyoto-gf.org> (火～金 13:00～16:00)

